

ほっとにゅーす

15日版

このコーナーは、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介するページです。

あなたが知っている旬の話題などがあれば、企画広報課広報広聴グループ（☎65-6504）まで事前にお知らせください。



1/23 (月)

ゆめ、あきらめない
サッカー日本代表の長友祐都選手の著書『日本男児』の作文コンクールで最優秀賞を受賞した川台海里君が市役所を訪れました。
腎臓の病気のため、幼稚園から続けていたサッカーができなくなった悔しさや自分を支えてくれる母への思いを素直な文体でつづりました。
海里くんは市長からの励ましの言葉に「元気になったら、またサッカーがしたい」と笑顔で応えました。



1/13 (金)

新成人の思い東北へ
「新成人を祝うつどい」で集められた募金の贈呈式が社会福祉協議会にて行われました。この日は各会場の実行委員会の代表者が訪れ、「新成人となり、社会を支える側となった今、できることからやっていきたい」とあいさつしました。募金はつどいの参加者全員が折った千羽鶴とともに東日本大震災の被災地に送られます。



1/28 (土)

北國脇往還に道しるべ
湯田歴史ウォークの会が計画している北國脇往還への道しるべ設置に向け、住民から募集していた題字が決定し、表彰式が行われました。書初めの形での募集に、子どもからお年寄りまで113人が応じ、10人の作品が選出されました。その題字をもとに作成された道しるべは、今年の春に北國脇往還に登場し、道行く人の目を楽しませてくれることでしょう。



1/24 (水)

本場韓国キムチに挑戦
朝鮮通信使ゆかりのまち高月でキムチ教室が開催されました。これはキムチづくりを通してまちおこしをしよう、親音の里ふるさとマーケット実行組合が行っているものです。講師の指導のもと、参加者たちはおいしいキムチの完成を楽しみしながら調理に取り組みました。様々な食材に応用できるキムチづくり、組合では2月末まで随時講習を受け付けています。



1/31 (水)

一緒にふるさと学習
郷土の食文化を学び、交流を深めようと、余呉小6年生と鏡岡中2年生が余呉湖に集まりました。雪がちらつき、湖面もシャーベット状になるほどの寒さの中、子どもたちは歓声を上げながらワカサギ釣りを楽しみ、各学校で調理しました。自分たちで釣り、調理したてんがらの味は格別と、余呉の冬の味覚を堪能していました。



1/29 (日)

ちびっこ運動教室
5・6歳児20人が集まった虎姫運動広場体育館には、マット運動やリズム体操で身体を存分に動かす子どもたちの歓声が響きました。ボールを追いかけたり、先生の掛け声に合わせて体育館中を走り回った後は、身体がほかほかに温まり、冬の寒さも吹き飛んで、上着も着ずにお父さん、お母さんの元へ帰っていききました。